

## システム研究グループ発表論文一覧 2005年(平成17年)

## ◆2005年(平成17年)論文発表

	タイトル	研究者	掲載先
1	二酸化炭素濃度安定化における技術の役割	秋元 圭吾、友田 利正	三田学会雑誌 98巻2号(pp.53-64)
2	Narrative Scenario Development Based on Cross-Impact Analysis for the Evaluation of Global-Warming Mitigation Options	林 礼美、時松 宏治 山本 博巳、森 俊介	Applied Energy
3	Analysis of R&D Strategy for Advanced Combined Cycle Power Systems	秋元 圭吾、林 礼美 小杉 隆信、友田 利正	電気学会C部門誌 126巻1号C(pp.98-106)
4	Public Acceptance and Risk-benefit Perception of CO <sub>2</sub> Geological Storage for Global Warming Mitigation in Japan	徳重 功子、秋元 圭吾 友田 利正	Mitigation and Adaptation Strategies for Global Change
5	Costs and Technology Role for Different Levels of CO <sub>2</sub> Concentration Stabilization	秋元 圭吾、友田 利正	Avoiding Dangerous Climate Change

## ◆2005年(平成17年)口頭発表

	タイトル	研究者	発表先
1	熱塩循環維持の観点からの温室効果ガス排出シナリオの評価	林 礼美、秋元 圭吾 時松 宏治、森 俊介 友田 利正	第21回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス19-2, pp.309-312 2005年1月27日
2	世界エネルギーモデルによる熱塩循環を維持するための最適なCO <sub>2</sub> 排出経路・削減策の評価	佐野 史典、秋元 圭吾 林 礼美	第21回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス19-3, pp.313-316 2005年1月27日
3	京都議定書以降の温暖化緩和策-地域別のコストと技術の役割-	佐野 史典、秋元 圭吾 本間 隆嗣、友田 利正	第21回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス13-3, pp.219-222 2005年1月27日
4	CO <sub>2</sub> 地中貯留技術のリスク・ベネフィット認知とその社会的受容への寄与	徳重 功子、秋元 圭吾 友田 利正	第21回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス33-5, pp.625-628 2005年1月26~27日
5	地球温暖化の影響・緩和・適応策統合評価システム構築	森 俊介、茅 陽一 友田 利正、山本 博巳 秋元 圭吾、時松 宏治 林 礼美、本間 隆嗣 佐野 史典	第21回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス19-1, pp.305-308 2005年1月26~27日
6	適応を考慮した温暖化による世界の農作物影響評価	秋元 圭吾、佐野 史典 森 俊介、山本 博巳 友田 利正	第21回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス19-4, pp.317-320 2005年1月26日~27日
7	排出源・貯留サイトの地域差を考慮した日本におけるCO <sub>2</sub> 地中貯留の経済性評価	秋元 圭吾、今関 幸男 徳重 功子、友田 利正 大隈 多加志	第21回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス33-6, pp.629-632 2005年1月26日~27日
8	温暖化緩和策評価のための動的な世界多地域多部門経済・エネルギーモデルの開発とその試算	本間 隆嗣、森 俊介 秋元 圭吾、山本 博巳 小杉 隆信、友田 利正	第21回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス19-5, pp.321-324 2005年1月27日
9	世界エネルギーモデルを用いた低利子率融資によるCO <sub>2</sub> 削減効果の分析	本間 隆嗣、秋元 圭吾 佐野 史典、友田 利正	第21回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス25-4, pp.441-444 2005年1月27日
10	Costs and Technology Role for Different Levels of CO <sub>2</sub> Concentration Stabilization	秋元 圭吾、友田 利正	International Scientific Symposium: Avoiding Dangerous Climate Change 2005年2月1日~3日
11	京都議定書以降の二酸化炭素排出抑制における技術の役割	秋元 圭吾、本間 隆嗣 佐野 史典、友田 利正	資源・素材学会 春季大会 2005年3月29日
12	二酸化炭素濃度安定化における技術の役割	秋元 圭吾、友田 利正	慶応環境会議 2005年3月16日
13	CO <sub>2</sub> 地中貯留の社会的受容に影響を及ぼす要因評価	徳重 功子、秋元 圭吾 友田 利正	第24回エネルギー・資源学会研究発表会 2005年6月9~10日
14	A multi-regional and multi-sectoral energy-economic model for the assessment of the carbon emission reduction policy	本間 隆嗣、森 俊介 秋元 圭吾、山本 博巳 小杉 隆信、友田 利正	28th Annual IAEE International Conference (主催: International Association for Energy Economics (IAEE) and Chinese Association for Energy Economics (CAEE)) 2005年6月4日~6日
15	Development of a multi-regional and multi-sectoral energy-economic model for climate policy assessments	本間 隆嗣、森 俊介 秋元 圭吾、山本 博巳 小杉 隆信、友田 利正	8th Annual Conference on Global Economic Analysis (主催: FAL, The Center for Global Trade Analysis) 2005年6月9日~11日
16	Analysis of subsidy effectiveness for renewables considering technology learning	佐野 史典、秋元 圭吾 本間 隆嗣、友田 利正	The 28th Annual IAEE International Conference 2005年6月5日
17	公平性・実効性の視点からのCO <sub>2</sub> 削減枠組の評価	佐野 史典、秋元 圭吾 本間 隆嗣、友田 利正	第24回エネルギー・資源学会研究発表会 2005年6月10日
18	南太平洋島嶼国の淡水レンズに対する海面上昇の影響評価	秋元 圭吾、籠橋 一輝	第24回エネルギー・資源学会研究発表会 2005年6月9~10日

	タイトル	研究者	発表先
19	温暖化に適応した作付け品種の変更を含む世界の農作物影響評価	秋元 圭吾、佐野 史典 森 俊介、友田 利正	第24回エネルギー・資源学会研究発表会 2005年6月9～10日
20	Development of a Dynamic Energy-economic Assessment Model with Multi-regions and Multi-sectors for the Evaluation of the Carbon Emission Reduction Policy	本間 隆嗣、森 俊介 秋元 圭吾、友田 利正	International Energy Workshop (IEW) 2005 (主催・支持団体:RITE, CRIEPI, EPRI, IEEJ, JSER, NEDO, EMF, IEA(ETSAP), and IIASA) 2005年7月7日
21	国際産業経済の方向を含めた地球温暖化影響・対策技術の総合評価(フェニックスプロジェクト)	システム研究グループ	(財)国際環境技術移転研究センター(ICETT) 2005年10月6日
22	地球温暖化影響と長期温暖化抑制目標のあり方	秋元 圭吾、林 礼美 森 俊介、友田 利正	第18回日本リスク研究学会研究発表会 2005年11月12～14日
23	地球温暖化対策としてのCO <sub>2</sub> 地中貯留の社会的受容性評価	徳重 功子、秋元 圭吾 友田 利正	第18回日本リスク研究学会研究発表会 2005年11月12～14日
24	Evaluation of various international schemes for climate change mitigation after Kyoto protocol	佐野 史典、秋元 圭吾 本間 隆嗣、友田 利正	International Energy Workshop (IEW) 2005 (主催・支持団体:RITE, CRIEPI, EPRI, IEEJ, JSER, NEDO, EMF, IEA(ETSAP), and IIASA) 2005年7月6日
25	温室効果削減基準としてのブラジル提案の動向について	黒沢 厚志、友田 利正	第240回月例研究会 (主催:(財)エネルギー総合工学研究所) 2005年11月25日
26	RITE温暖化対策研究－温暖化影響と対策の双方から今後の温暖化対策のあり方を考える－	森 俊介、秋元 圭吾	シンポジウム「温暖化研究最前線:気候変動と温暖化対策研究への日本の取組」 2005年11月11日

## ◆2005年(平成17年)出版物等その他発表

	タイトル	研究者	掲載先
1	地球温暖化への対応－京都議定書以降	友田 利正	「はかる」(日本計量機器工業連合会) 投稿日:2005年1月15日
2	ブラジル提案に関する動向	黒沢 厚志、友田 利正	季報 エネルギー総合工学 投稿日:2005年7月

化学研究グループ発表論文一覧 2005年(平成17年)

◆2005年(平成17年)原著論文

	タイトル	研究者	掲載先
1	Adsorption of Carbon Dioxide on Aminosilane Modified Mesoporous Silica	N. Hiyoshi, K. Yogo, T. Yashima	Journal of the Japan Petroleum Institute. 48 (1), 29-36 (2005)
2	Adsorption Characteristics of Carbon Dioxide on Organically Functionalized SBA-15	N. Hiyoshi, K. Yogo, T. Yashima	Microporous and Mesoporous Materials, 84 357-365.(2005)
3	CO <sub>2</sub> separation by membrane/absorption hybrid method	K. Okabe, M. Nakamura, H. Mano M. Teramoto, K. Yamada	Studies in Surface Science and Catalysis (in press)
4	CO <sub>2</sub> capture and enrichment by novel hollow fiber facilitated transport membrane module with low energy consumption	M. Teramoto, S. Kitada, S. Shimizu N. Ohnishi, H. Matsuyama N. Matsumiya, M. Nakamura K. Okabe, H. Mano	Greenhouse Gas Control Technologies, 2567-2571 (2005)
5	2,3-ジアミノプロピオン酸をキャリアとするゲル塗布膜によるCO <sub>2</sub> の促進輸送	松宮紀文、松藤茂雄、岡部和弘 真野 弘、松山秀人、寺本正明	膜(Membrane), 30 (1), 46-51 (2005)
6	Oxygen separation properties of bis(phenyl)fluorene-based cardo polymer membranes	S. Kazama, T. Teramoto, K. Haraya	High Performance Polymers. 17 (1) 3-17 (2005)
7	Cardo Polyimide Membranes for CO <sub>2</sub> Capture	S. Kazama, S. Morimoto, S. Tanaka H. Mano, T. Yashima, K. Yamada K. Haraya	Greenhouse Gas Control Technologies Volume I Peer Reviewed Papers), 75-82 (2005)
8	Diesel Particulate Matter Removal Using DBD Pulsed Plasmas	S. Yao, K. Madokoro, C. Fushimi K. Yamada	Fourth International Conference on the Physics of Dusty Plasmas, ed. L. Boufendi, M. Mikikian, and P.K. Shukla, American Institute of Physics, 209-212(2005)
9	Stand biomass estimation method by canopy coverage for application to remote sensing in an arid area of Western Australia	H. Suganuma, Y. Abe, M. Taniguchi H. Tanouchi, H. Utsugi, T. Kojima K. Yamada	Forest Ecology and Management (in press)
10	植生指数と植生分類を組み合わせた乾燥地林分バイオマス推定手法の有効性の検討	菅沼秀樹、長谷修平、安部征雄 田内裕之、小島紀徳、山田興一	リモートセンシング学会 (in press)
11	バイオエタノール精製プロセスの合理化	岩崎博、野中寛、松村幸彦 山田興一	日本エネルギー学会誌84(10), 852-860 (2005)
12	乾燥地緑化による炭素固定システムの構築	山田興一、小島紀徳、安部征雄、 江頭靖幸、田内裕之、高橋伸英、 濱野裕之、田原聖隆	エネルギー・資源26(6), 435-441(2005)

◆2005年(平成17年)解説/総説文

	タイトル	研究者	掲載先
1	CO <sub>2</sub> の炭酸塩固定化技術	余語克則	電気評論 環境技術ノート No.103(54-55)2005年12月
2	分離回収コストの大幅な低減を可能とするCO <sub>2</sub> 吸収液の開発	小野田正巳	電気評論 環境技術ノート No.101(58-59)2005年10月
3	CO <sub>2</sub> 分離・回収技術	丸山忠	機関誌「環境管理」平成17年6月号 VOL.41.No.6(2005)
4	燃焼排ガス中CO <sub>2</sub> の分離回収・隔離技術の動向-CO <sub>2</sub> 分離回収・隔離技術の研究開発動向	水野康信、丸山忠	電気評論6月号(電気評論社) 2005年6月
5	膜分離法	風間伸吾、山田興一	エネルギー・資源(2005 Vol.26 No.6 通巻154号) 2005年11月5日
6	高分子系分離膜によるCO <sub>2</sub> 分離技術の開発	風間伸吾	電気評論 環境技術ノート No.102(58-59)2005年11月
7	二酸化炭素分離膜の開発と日米共同研究	風間伸吾	The Japan Journal (January 2005 Vol.1 No.9)
8	エネルギー・環境から見た自動車	脇慶子 山田興一	金属 75(5), 62-65, 2005年
9	乾燥地緑化による炭素固定システムの構築	山田興一	エネルギー・資源 26(4), 281-284, 2005年
10	地球環境とエネルギー	山田興一	熱測定32(4), 195-200, 2005年

◆2005年(平成17年)口頭発表(国内学会)

	タイトル	研究者	発表先
1	超分子錯体光触媒(1):Ru(II)-Re(I)連結錯体を用いた可視光による高効率CO <sub>2</sub> 還元	豆塚廣章	日本化学会 第85春季年会(神奈川大学) 2005年3月26日

	タイトル	研究者	発表先
2	廃棄物中に含まれるCaを利用した新規CO <sub>2</sub> 炭酸塩固定化システムに関する研究	西本太紀、小玉聡、余語克則 山田興一	日本エネルギー学会関西支部 第50回研究発表会 (大阪科学技術センター)2005年12月2日
3	二酸化炭素の分離回収・隔離技術開発の動向	余語克則	平成17年度日本セラミックス協会関西支部セミナー(大阪産業創造館) 2005年12月1日
4	アミン修飾メソ細孔シリカ薄膜の合成とCO <sub>2</sub> 分離特性	坂本謙、永田健祐、余語克則 山田興一	膜シンポジウム2005(京都大学) 2005年11月25日
5	アミン修飾メソ細孔シリカ薄膜の合成とガス分離特性	坂本謙、余語克則、山田興一	触媒学会第96回触媒討論会(熊本大学) 2005年9月23日
6	廃棄物から選択的に溶出させたCaによるCO <sub>2</sub> 炭酸塩固定化システムの開発	小玉聡、西本太紀、余語克則 山田興一	化学工学会第37回秋季大会(岡山大学) 2005年9月17日
7	新規CO <sub>2</sub> 固定化・有効利用技術の開発(3)廃棄物から選択的に溶出させたカルシウムによるCO <sub>2</sub> の炭酸塩固定	小玉聡、西本太紀、藤永紅 余語克則、山田興一	日本化学会第85春季年会(神奈川大学) 2005年3月27日
8	種結晶-二次成長法によるゼオライト配向膜の合成と気体透過特性	山本尚毅、佐々木寛子、上宮成之 伴隆幸、大矢豊、余語克則 山田興一	日本化学会第85春季年会(神奈川大学) 2005年3月27日
9	種結晶二次成長法によるA型ゼオライト配向膜の合成とキャラクタリゼーション	佐々木寛子、山本尚毅、上宮成之 伴隆幸、大矢豊、余語克則 山田興一	日本化学会第85春季年会(神奈川大学) 2005年3月27日
10	多孔質アルミナ基板を支持体とするメソ細孔シリカ薄膜の合成とガス分離特性	坂本謙、辻本晶子、余語克則 山田興一	日本化学会第85春季年会(神奈川大学) 2005年3月26日
11	各種アミン修飾メソ多孔体のCO <sub>2</sub> 吸着特性	辻本晶子、坂本謙、余語克則 山田興一	日本化学会第85春季年会(神奈川大学) 2005年3月26日
12	ガス分離への適応に向けたゼオライトの配向薄膜化	谷川篤、荒井一心、山崎俊祐 義家亮、西村誠、上宮成之 伴隆幸、大矢豊、余語克則 山田興一	化学工学会第70年会(名古屋大学) 2005年3月22~24日
13	CO <sub>2</sub> 固定化技術の概要	小野田正巳	クリーンコールセミナー第1回((財)石炭エネルギーセンター主催)(札幌コンベンションセンター)2005年7月14日
14	低品位廃熱を利用する二酸化炭素分離回収技術	小野田正巳	地球環境技術推進懇話会 循環型社会形成技術・システム研究会(大阪科学技術センター)2005年5月13日
15	デンドリマーを用いたCO <sub>2</sub> 分離膜の研究	奥泰之、Firoz Alam Chowdhury 甲斐照彦、風間伸吾、山田興一	膜シンポジウム 2005年11月25日
16	温室効果ガス削減に向けた高分子膜の利用	風間伸吾	ポリマー材料フォーラム第14回 2005年11月15日
17	分子ゲート機能CO <sub>2</sub> 分離膜の基盤技術研究開発	風間伸吾、山田興一	地球環境国際研究推進事業成果報告会 2005年10月6日
18	デンドリマー複合膜の開発とCO <sub>2</sub> 分離性能	縷織貴之、段淑紅、甲斐照彦 風間伸吾、山田興一	化学工学会第37回秋季大会(岡山大学) 2005年9月17日
19	新規デンドリマー膜のCO <sub>2</sub> 分離性能	風間伸吾、奥泰之、嶋田祐美 Firoz Alam Chowdhury、甲斐照彦 山田興一	化学工学会第37回秋季大会(岡山大学) 2005年9月17日
20	デンドリマーを用いたCO <sub>2</sub> 分離膜の開発	風間伸吾、嶋田祐美、奥泰之 Firoz Alam Chowdhury、縷織貴之 段淑紅、山田興一	日本膜学会第27年会 2005年5月19~20日
21	NaHCO <sub>3</sub> 添加によるZnOのCO <sub>2</sub> 吸収反応の促進	姚水良、加島由可梨、峰智恵子 山田興一	化学工学会第37回秋季大会(岡山大学) 2005年9月17日
22	固体酸化物形燃料電池用Ni-SDCアノードの過電圧と電極構造	福長博、大野智仁、新井親夫 山田興一	電気化学会第72回大会(熊本) 2005年4月1日~3日
23	バイオエタノールプロセスの合理化	岩崎博、野中寛、松村幸彦 山田興一	第14回日本エネルギー学会大会(大阪) 2005年8月4日~5日
24	固体酸化物形燃料電池用Ni-SDCアノードの有効電極膜圧	福長博、大野智仁、近堂慶太 高塚透、山田興一	電気化学秋季大会(千葉) 2005年9月8日~9日
25	教育・研究から見た環境戦略とその体系	山田興一	化学工学会第37回秋季大会(岡山大学) 2005年9月15~16日
26	新技術導入による産業構造変化の産業連関表を用いた新しい分析方法	松瀬文浩、山田興一	第1回日本LCA学会研究発表会(つくば) 2005年12月2日
27	二酸化炭素分離回収・隔離技術の現状と展望	山田興一	石油学会精製講演会(東京) 2005年10月14日

## ◆2005年(平成17年)口頭発表(国際学会)

	タイトル	研究者	発表先
1	Adsorption/desorption properties of carbon dioxide on aminosilane-modified mesoporous silica	K. Yogo, A. Thujimoto, Y. Sakamoto K. Yamada	Pacificchem 2005 December 19, 2005
2	Inorganic and Organic membrane development	K. Yogo	Australia-JapanWorkshop - CO <sub>2</sub> Capture Enabling Technologies for Coal-fired Power Generation -, Australian Pavilion Aichi Expo Site, Nagoya September 16, 2005
3	CO <sub>2</sub> separation by membrane/chemical absorption hybrid method	H. Mano	Australia-Japan Workshop, Australian Pavilion, Aichi Expo Site, Japan September 16, 2005
4	CO <sub>2</sub> separation by membrane/absorption hybrid method	K. Okabe, M. Nakamura, H. Mano M. Teramoto, K. Yamada	ICOM 2005, Seoul,Korea August 21-26, 2005
5	CO <sub>2</sub> separation by membrane/absorption hybrid method	K. Okabe, M. Nakamura, H. Mano M. Teramoto, K. Yamada	APCRE'05, Gyeongju, Korea June 12-15, 2005
6	Development of a new chemical absorption system for CO <sub>2</sub> capture	K. Goto	The International CO <sub>2</sub> Capture Network (University of Texas, Austin Texas,USA) October 3, 2005
7	Novel absorbents for removal of CO <sub>2</sub> from gas stream	K. Goto	Australia-Japan Workshop, Australian Pavilion, Aichi Expo Site, Japan September 16, 2005
8	Polymeric CO <sub>2</sub> Separation Membrane for Mitigating Global Warming	S. Kazama, K. Yamada	Pacificchem 2005, 19, December, 2005
9	Formation and Characterization of Dendrimer Composite Membrane for CO <sub>2</sub> Separation	S. Duan, T. Kouketsu, S. Kazama K. Yamada, K. Nagai, B. D. Freeman	ICOM 2005, 21-26, August, 2005, Seoul, Korea
10	CO <sub>2</sub> Separation Membrane Of Modified PAMAM Dendrimer	F. A. Chowdhury, Y. Shimada, H. Oku S. Kazama, K. Yamada	ICOM 2005, 21-26, August, 2005, Seoul, Korea
11	Fundamental study on diesel particulate matter removal using a dielectric barrier discharge reactor	C. Fushimi, K. Madokoro, S. Yao K. Yamada	6th Workshop on Fine Particle Plasmas, National Institute for Fusion Science, Toki, Japan December 16, 2005
12	Kinetic Study of ZnO Carbonation	S. Yao, Y. Kashima, C. Mine K. Yamada	China/USA/Japan Joint Chemical Engineering Conference, Beijing October 12, 2005
13	Diesel Particulate Matter Removal Using DBD Pulsed Plasmas	S. Yao, K. Madokoro, C. Fushimi K. Yamada	International Conference on the Physics Dusty Plasmas, ICPDP 2005, Orleans, France June 17, 2005
14	How to Promote an Afforestation Project as a CO <sub>2</sub> Sequestration Measure	K. Yamada	8th International Conference on Desert Technology, Nasu, Japan November 27-December 2, 2005
15	Death of Trees at Wheat Belt in Western Australia; Identification of its Causes by Chemical Analysis of Soil	H. Hamano, N. Saito, T. Kojima S. Kato, M. Saito, A. Kinnear K. Yamada	8th International Conference on Desert Technology, Nasu, Japan November 27-December 2, 2005
16	Effect of Temperature and Light on Germination of 12 Afforested Trees in South Western Australia	S.Kawasaki, S.Kaneoya, H. Tanouchi, H. Hamano, T. Kojima K. Yamada	8th International Conference on Desert Technology, Nasu, Japan November 27-December 2, 2005
17	Soil mite (Acari) Assemblages in Early Stage Reafforested, Highly Degraded Semiarid Landscapes in Western Australia	A. Kinnear, P. Curry, T. Kojima K. Yamada	8th International Conference on Desert Technology, Nasu, Japan November 27-December 2, 2005
18	Litter and Soil Carbon Dynamics in Arid Forest Ecosystems and its Implication to Carbon Sequestration by Arid Land Afforestation	T. Kawanishi, S. Kumada, Y. Hayashi, K. Ogomori, Y. Kobayashi, N. Takahashi, M. Saito, H. Hamano, T. Kojima K. Yamada	8th International Conference on Desert Technology, Nasu, Japan November 27-December 2, 2005
19	A Modeling Methodology of Large Scale Water Balance and Salt Accumulation for Afforestation in Arid Land	T. Hirukawa, N. Asaka, H. Hamano K. Yamada, T. Kojima	8th International Conference on Desert Technology, Nasu, Japan November 27-December 2, 2005
20	Stand Growth Estimation of an Afforestation and Natural Forests in Arid Land of Western Australia	K. Shiono, H. Suganuma, Y. Abe H. Tanouchi, H. Utsugi, M. Saito N. Takahashi, T. Kojima, K. Yamada	8th International Conference on Desert Technology, Nasu, Japan November 27-December 2, 2005
21	Development of Tree Growth Simulator based on a Process Model of Photosynthesis for Eucalyptus camaldulensis in arid land	Y. Egashira, M. Shibata, K. Ueyama H. Utsugi, T. Kojima N. Takahashi, S. Kawarasaki K. Yamada	8th International Conference on Desert Technology, Nasu, Japan November 27-December 2, 2005
22	Vegetation Limiting Factors as Salt Accumulation and Soil Thickness in Leonora Western Australia	M. Saito, H. Tanouchi, T. Saito D. Naito, Y. Abe, K. Yamada	8th International Conference on Desert Technology, Nasu, Japan November 27-December 2, 2005
23	Water Use Efficiency of the Trees in Arid Lands -The Plasticity for Fluctuation of Water Conditions-	H. Tanouchi, H. Utsugi, N. Takahashi H. Hamano, S. Kawarasaki, T. Kojima K. Yamada	8th International Conference on Desert Technology, Nasu, Japan November 27-December 2, 2005
24	Effects of Calcined Bauxite as a Water-holding Material and a Way of Mixing it with Soil on Tree Growth	N. Takahashi, H. Hamano, Y. Abe T. Kojima, K. Yamada	8th International Conference on Desert Technology, Nasu, Japan November 27-December 2, 2005

## ◆2005年(平成17年)出版物等その他発表

	タイトル	研究者	掲載先
1	Mineral carbonation and industrial uses of carbon dioxide	M. Mazzotti, J. C. Abandades R. Allam, K. S. Lackner F. Meunier, E. Rubin J. C. Sanchez, K. Yogo R. Zevenhoven	"IPCC Special Report on Carbon Dioxide Capture and Storage: Chapter 7, IPCC, Cambridge University Press (2005).
2	新聞掲載「CO <sub>2</sub> を低コスト回収 RITE高効率分離膜開発へ」(GCEPプロジェクト)	-	化学工業日報 2005年9月1日朝刊 12面
3	新聞掲載「CO <sub>2</sub> のみを完全分離 RITE、次世代膜開発へ」(GCEPプロジェクト)	-	日本経済新聞 2005年8月26日朝刊 13面

CO<sub>2</sub>貯留研究グループ発表論文一覧 2005年(平成17年)

◆2005年(平成17年)原著論文 [CO<sub>2</sub>地中貯留プロジェクト関連]

	タイトル	研究者	掲載先
1	炭素隔離技術の現状と将来動向	村井重夫	第1回途上国等参加問題検討委員会 報告書 2005年3月
2	二酸化炭素吸着に伴う石炭の棒順特性及び浸透性への影響に関する実験的研究	薛自求, 大隅多加志	資源と素材, Vol.121, No.6 2005年6月
3	二酸化炭素地中貯留と岩石物性の地殻工学への応用	薛自求	地学雑誌 2005年8月(投稿)
4	Laboratory study of CO <sub>2</sub> migration in water-saturated anisotropic sandstone, based on P-wave velocity imaging	Ziqiu Xue and Xinling Lei	物理探査 2005年9月(投稿)
5	Estimation of CO <sub>2</sub> saturation from time-lapse CO <sub>2</sub> well logging in an onshore aquifer, Nagaoka, Japan	Ziqiu Xue, Daiji Tanase and Jiro Watanabe	物理探査 2005年9月(投稿)
6	FIELD TEST OF CO <sub>2</sub> INJECTION IN NAGAOKA, JAPAN	Katsuhiko Kikuta, Seiji Hongo, Daiji Tanase and Takashi Ohsumi	Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies, P1367-1372, 5-9 September 2004, Vancouver, Canada (printed in 2005)
7	DOES CARBON DIOXIDE REMAIN DISSOLVED IN AQUIFER?	Ikuo Okamoto, Ziqiu Xue and Takashi Ohsumi	Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies, P2195-2198, 5-9 September 2004, Vancouver, Canada (printed in 2005)
8	COAL MATRIX SWELLING CAUSED BY ADSORPTION OF CARBON DIOXIDE AND ITS IMPACT ON PERMEABILITY	Ziqiu Xue and Takashi Ohsumi	Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies, P2253-2256, 5-9 September 2004, Vancouver, Canada (printed in 2005)
9	EFFECTS OF BEDDING PLANE ON CO <sub>2</sub> MIGRATION AND DEFORMATION STRAIN IN WATER-SATURATED POROUS SANDSTONE	Ziqiu Xue and Takashi Ohsumi	Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies, P2203-2206, 5-9 September 2004, Vancouver, Canada (printed in 2005)
10	NUMERICAL SIMULATIONS OF THE INJECTION AND MIGRATION BEHAVIOR OF CARBON DIOXIDE	Yukio Imaseki, Takashi Ohsumi, Toshimasa Tomoda, Motoo Uno, and Hiroshi Ohkuma	Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies, P2181-2184, 5-9 September 2004, Vancouver, Canada (printed in 2005)
11	CO <sub>2</sub> SEQUESTRATION INTO GEOTHERMAL FIELDS	Akira Ueda, Tatsuya Yajima, Hideshi Kaieda and Takashi Ohsumi	Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies, P2007-2010, 5-9 September 2004, Vancouver, Canada (printed in 2005)
12	EXPERIMENTAL STUDY REGARDING PUBLIC PERCEPTION OF CO <sub>2</sub> UNDERGROUND SEQUESTRATION TECHNOLOGIES	Motoo Uno, Yasuko Mori and Yoko Endo	Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies, P2481-2484, 5-9 September 2004, Vancouver, Canada (printed in 2005)
13	EXPLORATION OF PUBLIC ACCEPTANCE REGARDING CO <sub>2</sub> UNDERGROUND SEQUESTRATION TECHNOLOGIES	Motoo Uno, Yasuko Mori, Kohko Tokushige & Akira Furukawa	Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies, P1705-1710, 5-9 September 2004, Vancouver, Canada (printed in 2005)

◆2005年(平成17年)原著論文 [CO<sub>2</sub>海洋隔離プロジェクト関連]

	タイトル	研究者	掲載先
1	OCEAN UPTAKE POTENTIAL FOR CARBON DIOXIDE SEQUESTRATION	Masao Sorai and Takashi Ohsumi	Geochemical Journal, Vol.39, No.1, 29-43, 2005
2	EVALUATION OF BENEFITS OF CO <sub>2</sub> OCEAN SEQUESTRATION	Koji Tokimatsu, Masao Sorai, Yoichi Kaya, Michimasa Magi and Takashi Ohsumi	Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies, P773-781, 5-9 September 2004, Vancouver, Canada (printed in 2005)
3	BIOLOGICAL IMPACT ASSESSMENT OF DIRECT CO <sub>2</sub> INJECTION INTO THE OCEAN	Jun Kita and Takashi Ohsumi	Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies, P783-789, 5-9 September 2004, Vancouver, Canada (printed in 2005)
4	CO <sub>2</sub> RELEASE IN DEEP OCEAN BY MOVING SHIP	Junichi Minamiura, Hideyuki Suzuki, Baixin Chen, Masahiro Nishio and Masahiko Ozaki	Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies, P809-817, 5-9 September 2004, Vancouver, Canada (printed in 2005)
5	A LAGRANGIAN METHOD COMBINED WITH HIGH RESOLUTION OCEAN GENERAL CIRCULATION MODEL TO EVALUATE CO <sub>2</sub> OCEAN SEQUESTRATION	Yoshio Masuda, Yasuhiro Yamanaka, Taketo Hashioka, Michimasa Magi, Shigeo Murai and Takashi Ohsumi	Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies, P819-827, 5-9 September 2004, Vancouver, Canada (printed in 2005)

◆2005年(平成17年)解説／総説文 [CO<sub>2</sub>地中貯留プロジェクト関連]

	タイトル	研究者	掲載先
1	燃焼排ガス中のCO <sub>2</sub> の分離回収・隔離技術の動向—CO <sub>2</sub> 分離回収・隔離技術の研究開発動向	水野康信, 丸山忠	電気評論6月号 2005年6月
2	地球温暖化問題の切り札 二酸化炭素の地下貯留	大隅多加志	「21世紀の環境とエネルギーを考える」第27巻 6-18頁 2005年4月

◆2005年(平成17年)口頭発表 [CO<sub>2</sub>地中貯留プロジェクト関連]

	タイトル	研究者	発表先
1	地中貯留におけるCO <sub>2</sub> モニタリングの現状と課題	薛自求, 大隅多加志	第21回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス 2005年1月
2	地球温暖化ガスの問題と対応—CO <sub>2</sub> 固定技術、地下貯留技術—	菊田勝彦	電力土木技術協会 2005年2月
3	弾性波トモグラフィによるCO <sub>2</sub> 挙動のモニタリングについて	薛自求, 大隅多加志	資源素材学会平成17年度春季大会 2005年3月
4	二酸化炭素地中貯留モニタリングにおける弾性波トモグラフィの適用例	信岡太, 棚瀬大爾, 薛自求	日本物理探査学会平成17年度春季学術講演会 2005年5月
5	CO <sub>2</sub> 地中貯留	大隅多加志	日本物理探査学会平成17年度春季学術講演会 2005年5月
6	二酸化炭素地中貯留実証実験における坑井間弾性波トモグラフィの適用例	斉藤秀樹, 棚瀬大爾, 薛自求	日本石油技術協会平成17春季学術講演会 2005年6月
7	帯水層貯留における二酸化炭素の鉱物固定化について	三戸彩絵子, 薛自求, 大隅多加志	資源・素材学会 秋季大会 2005年9月
8	CO <sub>2</sub> 圧入コア内部の比抵抗分布モニタリング	尾西恭亮, 石川慶彦, 塚田和彦, 岡本征雄, 薛自求, 松岡俊文	資源素材学会平成17年度秋季大会 2005年9月
9	地球温暖化の地球工学的対策: 二酸化炭素を如何に隔離するか	村井重夫	Human Life Science Forum 2005 2005年10月
10	二酸化炭素地中貯留の坑井間弾性波トモグラフィによるモニタリング	斉藤秀樹, 棚瀬大爾, 薛自求	日本石油学会平成17秋季大会 2005年10月
11	Geophysical Monitoring of CO <sub>2</sub> Sequestration at an Onshore Saline Aquifer in Nagaoka, Japan	棚瀬大爾, 薛自求, 東宏幸	2nd Monitoring Network Meeting of IEA 2005年10月
12	Pilot Test of CO <sub>2</sub> Injection in Nagaoka, Japan	棚瀬大爾, 大熊宏, 斉藤秀樹	CO <sub>2</sub> Store Group Steering Committee Meeting 2005年10月
13	Time-lapse Cross-well Seismic Tomography for the Monitoring of CO <sub>2</sub>	斉藤秀樹, 信岡太, 棚瀬大爾	CO <sub>2</sub> Store Group Steering Committee Meeting 2005年10月
14	Simulation Study of PilotCO <sub>2</sub> Injection in Iwanohara, Nagaoka City, Japan	大熊宏	CO <sub>2</sub> Store Group Steering Committee Meeting 2005年10月
15	Development of Simulator for Geological CO <sub>2</sub> Sequestration	大熊宏	CO <sub>2</sub> Store Group Steering Committee Meeting 2005年10月
16	CO <sub>2</sub> 圧入による岩石コアの比抵抗変動測定	尾西恭亮, 石川慶彦, 塚田和彦, 岡本征雄, 薛自求, 山田泰広, 松岡俊文	物理探査学会第113回学術講演会 2005年10月
17	RITEにおけるCO <sub>2</sub> 隔離技術への取組みについて	村井重夫	NTTデータ研環境セミナー「CO <sub>2</sub> 地中貯留技術の展望」 2005年11月
18	二酸化炭素地中貯留技術研究開発「長岡プロジェクト」の概要	水野康信	NTTデータ研環境セミナー「CO <sub>2</sub> 地中貯留技術の展望」 2005年11月
19	An Overview of the Nagaoka Project in Japan	阿部正憲, 薛自求, 秋元圭吾, 棚瀬大爾, 水野康信	Society of Petroleum Engineers - Applied Technology Workshop. 2005年11月
20	Time-lapse crosswell seismic tomography and well logging to monitor the injected CO <sub>2</sub> in an onshore aquifer, Nagaoka, Japan	薛自求, 棚瀬大爾, 信岡太	アメリカ物理探査学会、SEG International Exposition 2005年11月
21	CO <sub>2</sub> monitoring at the pilot-scale CO <sub>2</sub> injection site in Nagaoka, Japan	棚瀬大爾, 薛自求, 斉藤秀樹	2005 AGU (米国地球物理学会) Fall Meeting 2005年12月

	タイトル	研究者	発表先
22	蛇紋岩体の地化学環境を利用した原位置試験によるCO <sub>2</sub> 地中鉱物固定のための基礎技術の開発	岡本征雄	RITE合同成果報告会 2005年11月
23	蛇紋岩体によるCO <sub>2</sub> 鉱物固定の可能性—北海道岩内岳における原位置試験—	岡本征雄, 矢島達哉, 大隅多加志	資源素材学会2005秋季大会 2005年9月
24	CO <sub>2</sub> 隔離の現状	村井重夫	学振148委員会(石炭・炭層資源有効利用技術) 2005年5月
25	蛇紋岩体におけるCO <sub>2</sub> 固定原位置試験	岡本征雄, 矢島達哉, 大隅多加志	地球惑星科学関連学会2005年合同大会 2005年5月
26	CO <sub>2</sub> 帯水層貯留における岩石からの微量物質溶出挙動	伊藤由紀, 三戸彩絵子	地球化学会 年会 2005年9月
27	CO <sub>2</sub> 溶解水による堆積岩中の灰長石の溶解速度	矢島達哉, 大隅多加志	資源素材学会2005秋季大会 2005年9月
28	The effects of CO <sub>2</sub> injection on the geomechanical behavior of Australian brown coal:Uniaxial testing	薛自求	Alaska Rocks 2005(岩盤力学国際シンポジウム) 2005年6月

◆2005年(平成17年)口頭発表 [CO<sub>2</sub>海洋隔離プロジェクト関連]

	タイトル	研究者	発表先
1	CO <sub>2</sub> 海洋隔離の高解像度モデルによるシミュレーション	増田良帆, 山中康裕, 笹井義一, 間木道政	日本海洋学会秋季大会 2005年9月
2	Numerical Simulation of Mortality of Zooplankton Caused by Direct Injection of Carbon Dioxide in the Ocean	Toru Sato, Yuji Watanabe, Koji Toyota	4th annual conference on carbon capture & sequestration, 2-5 May, 2005, Alexandria, Virginia
3	強制加振試験による傾斜円柱のVIV解析	安達陽介, 南浦純一, 鈴木英之, 佐藤徹, 尾崎雅彦	日本船舶海洋工学会春季講演会 2005年6月
4	Trophic structure determination of the deep-sea copepods in the South Western Pacific by the stable isotope analysis	Haruko Kurihara, Saeko Mito, Jun Kita	The 9th International Conference on Copepoda 2005年7月
5	深海への溶解希釈によるCO <sub>2</sub> 海洋隔離の可能性	尾崎雅彦	日本深海技術協会 平成17年新春講演会 2005年1月
6	CO <sub>2</sub> 隔離の現状	村井重夫	学振148委員会 2005年7月
7	Development of Extended Probit Mortality Model for Zooplankton Caused by Transient Change of CO <sub>2</sub> Concentration	Toru Sato, Yuji Watanabe, Koji Toyota	第18回海洋工学シンポジウム 2005年1月
8	Japan program for CO <sub>2</sub> sequestration	Takashi Ohsumi	Seminar on Sub-sea CO <sub>2</sub> storage technical challenges, risk and environmental aspects, Septembaer, 2005, Oslo
9	Advances in Japanese Project on CO <sub>2</sub> ocean storage	Jun Kita	Seminar on Sub-sea CO <sub>2</sub> storage technical challenges, risk and environmental aspects, Septembaer, 2005, Oslo
10	地球温暖化の地球工学的対策: 二酸化炭素を如何に隔離するか	村井重夫	Human Life Science Forum 2005 2005年10月
11	安定同位対比を用いた海洋中深層生物の食物網研究	三戸彩絵子, 喜田潤, 栗原晴子	安定同位体分析セミナー2005 2005年7月
12	西部太平洋における粒子物質の分布および中深層生物の食物網との関係	三戸彩絵子, 間木道政	第8回みらいシンポジウム 2005年1月

◆2005年(平成17年)出版物等その他発表 [CO<sub>2</sub>海洋隔離プロジェクト関連]

	タイトル	研究者	掲載先
1	漁場環境を考える 海洋の生物と二酸化炭素	石松惇, 喜田潤	日本水産資源保護協会月報 N0.478(P3-6) 2005年2月
2	Extended probit mortality model for zooplankton against transient change of PCO <sub>2</sub>	Toru Sato, Yuji Watanabe, Koji Toyota, Joji Ishizaka	Marine Pollution Bulletin 2005年4月投稿
3	炭素隔離技術の現状と将来同行	村井重夫	「第1回途上国等参加問題検討委員会」報告書 2005年4月

植物研究グループ発表論文一覧 2005年(平成17年)

◆2005年(平成17年)論文発表

	タイトル	研究者	掲載先
1	Cyclic electron flow around PSI is essential for photosynthesis	Y. Munekage, M. Hashimoto C. Miyake, K. Tomizawa, T. Endo M. Tasaka, T. Shikanai,	Nature 429: 579-582
2	Response of Cyclic Electron Flow around PSI (CEF-PSI) to CO <sub>2</sub> in Tobacco Leaves—Electron flux ratio in PSI to PSII Determined the Magnitude of Non-Photochemical Quenching (NPQ) of Chl Fluorescence	C. Miyake, M. Miyata Y. Shinzaki, K. Tomizawa	Plant Cell Physiol (in press)
3	Enhancement of cyclic electron flow around PSI at high light and its contribution to the induction of non-photochemical quenching (NPQ) of Chl fluorescence in intact leaves of tobacco plants	C. Miyake, Y. Shinzaki, M. Miyata K. Tomizawa	Plant Cell Physiol. 45: 1426-1433
4	Isolation of Intact Vacuoles and Proteomic Analysis of Tonoplast from Suspension-Cultured Cells of <i>Arabidopsis thaliana</i>	T. Shimaoka, M. Ohnishi, T. Sazuka N. Mitsuhashi, I. Hara, K. Shimazaki M. Maeshima, A. Yokota, K. Tomizawa, T. Mimura	Plant Cell Physiol., Jun 2004; 45: 672-683
5	Singlet oxygen inhibits the repair of photosystem II by suppressing the translation elongation of the D1 protein in <i>Synechocystis</i> sp. PCC 6803	Y. Nishiyama, SI Allakhverdiev H. Yamamoto, H. Hayashi N. Murata	Biochemistry. 2004 Sep 7; 43(35): 11321-30
6	Photoinactivation of Ascorbate Peroxidase in Intact Chloroplasts from Tobacco Leaves - <i>Galdieria partita</i> -APX maintains the activity of the Water-Water Cycle in Transplastomic Tobacco Plants.-	C. Miyake, M. Okamura, M. Miyata Y. Shinzaki, M. Nishioka, S. Kitajima A. Yokota, K. Tomizawa	Plant Cell. submitted
7	Massive accumulation of green fluorescent protein in tobacco chloroplasts by transplastomic transformation.	K. Tomizawa, A. Yokota	Nature biotech. submitted
8	Sporophyte anatomy of <i>Cavicularia densa</i> Steph. (Blasiaceae)	M. Shimamura, T. Furuki H. Deguchi	Bryologist submitted

◆2005年(平成17年)口頭発表

	タイトル	研究者	発表先
1	光合成制御因子の探索を目的としたシロイヌナズナA/Ci変異株のスクリーニング法の確立と現状	三宅親弘、宮田桃子、堀口清華 新崎由紀、山本宏、富澤健一	第12回関西光合成研究会
2	シアノバクテリア <i>Synechocystis</i> 遺伝子破壊株を用いた <i>Arabidopsis</i> CRR7相同蛋白質の機能解析	山本宏、鹿内利治、宮田桃子 新崎由紀、堀口清華、加藤秀起 三宅親弘、富澤健一	第13回関西光合成研究会
3	コムギ葉緑体転写酵素 PEP画分のプロテオーム解析	角山雄一、嶋岡泰世、富澤健一 椎名隆	日本植物生理学会2005年度年会および第45回シンポジウム
4	ポプラ葉緑体形質転換法の開発	奥村暁、澤田真千子 Yong Woo Park、林隆久、富澤健一	日本植物生理学会2005年度年会および第45回シンポジウム
5	<i>Arabidopsis</i> CRR7 相同遺伝子を欠損したシアノバクテリア <i>Synechocystis</i> sp. PCC 6803変異株の解析	山本宏、鹿内利治、宮田桃子 新崎由紀、堀口清華、加藤秀起 三宅親弘、富澤健一	日本植物生理学会2005年度年会および第45回シンポジウム
6	高等植物生葉でのPSI循環的電子伝達反応(CEF-PSI)の光およびCO <sub>2</sub> 応答 - CEF-PSIはNPQ誘導の主役である	三宅親弘、堀口清華、新崎由紀 山本宏、加藤秀起、富澤健一	日本植物生理学会2005年度年会および第45回シンポジウム
7	光合成制御要因の調節因子探索を目的としたシロイヌナズナA/Ci変異株のスクリーニング法の確立と現状	堀口清華、三宅親弘、新崎由紀 山本宏、加藤秀起、宮田桃子 鹿内利治、牧野周、富澤健一	日本植物生理学会2005年度年会および第45回シンポジウム
8	葉緑体ゲノムへの多重遺伝子導入技術の構築	高瀬晶子、西岡美典、高瀬尚文 富澤健一	2005年度日本農芸化学会大会
9	レタス葉緑体形質転換法の開発	金本浩介、山下敦士、奥村暁 浅尾浩史、服部正平、富澤健一	2005年度日本農芸化学会大会
10	長鎖DNA導入葉緑体形質転換ベクターの開発	足立崇、高瀬尚文、富澤健一	2005年度日本農芸化学会大会

◆2005年(平成17年)出版物その他発表

	タイトル	研究者	掲載先
1	下等陸上植物で見られる単色体性細胞について	嶋村正樹	PLANT MORPHOLOGY Vol.16 (印刷中)
2	コケ植物のγチューブリン	峰雪芳宜、嶋村正樹	PLANT MORPHOLOGY Vol.16 (印刷中)

微生物研究グループ発表論文一覧 2005年(平成17年)

◆2005年(平成17年)原著論文

	タイトル	研究者	掲載先
1	Multiple large segment deletion method for <i>Corynebacterium glutamicum</i> .	N. Suzuki, H. Nonaka, Y. Tsuge, S. Okayama, M. Inui and H. Yukawa	Appl. Microbiol. Biotechnol. 69: 151-61. 2005
2	New multiple deletion method for <i>Corynebacterium glutamicum</i> genome using a mutant <i>lox</i> sequence.	N. Suzuki, H. Nonaka, Y. Tsuge, M. Inui and H. Yukawa	Appl. Environ. Microbiol. 71: 8472-80. 2005
3	Manipulating Corynebacteria from Individual Genes to Chromosomes	A.A. Vertès, M. Inui and H. Yukawa,	Appl. Environ. Microbiol. 71: 7633-42. 2005
4	Enhanced hydrogen production from formic acid by formate hydrogen lyase-overexpressing <i>Escherichia coli</i> strain.	A. Yoshida, T. Nishimura, H. Kawaguchi, M. Inui and H. Yukawa	Appl. Environ. Microbiol. 71: 6762-8. 2005
5	Production of organic acids by <i>Corynebacterium glutamicum</i> under oxygen deprivation.	S.Okino, M. Inui and H. Yukawa	Appl. Microbiol. Biotechnol. 68: 475-80. 2005
6	Anaerobic degradation of aromatic compounds by <i>Magnetospirillum</i> strains: isolation and degradation genes.	Y. Shinoda, J. Akagi, Y. Uchihashi, A. Hiraishi, H. Yukawa, H. Yurimoto, Y. Sakai and N. Kato	Biosci. Biotechnol. Biochem. 69: 1483-91. 2005
7	Degradation of corn fiber by <i>Clostridium cellulovorans</i> cellulases and hemicellulases and contribution of scaffolding protein, CbpA.	R. Koukikolo, H-Y. Cho, A. Kosugi, M. Inui, H. Yukawa and R.H. Doi.	Appl. Environ. Microbiol. 71: 3504-11. 2005
8	Molecular cloning and transcriptional and expression analysis of <i>engO</i> , encoding a new noncellulosomal family 9 enzyme from <i>Clostridium cellulovorans</i> .	S.O. Han, H. Yukawa, M. Inui and R.H. Doi.	J. Bacteriol. 187: 4884-9. 2005
9	Large scale engineering of the <i>Corynebacterium glutamicum</i> genome.	N. Suzuki, S. Okayama, H. Nonaka, Y. Tsuge, M. Inui and H. Yukawa.	Appl. Environ. Microbiol. 71: 3369-72. 2005
10	Effect of carbon source on the cellulosomal subpopulations of <i>Clostridium cellulovorans</i> .	S.O. Han, H. Yukawa, M. Inui and R.H. Doi.	Microbiology. 151: 1491-7. 2005
11	<i>Cre/loxP</i> mediated deletion system for large genome rearrangements in <i>Corynebacterium glutamicum</i> .	N. Suzuki, Y. Tsuge, M. Inui and H. Yukawa.	Appl. Microbiol. Biotechnol. 67: 225-33. 2005
12	A new insertion sequence, IS14999, from <i>Corynebacterium glutamicum</i> .	Y. Tsuge, K. Ninomiya, N. Suzuki, M. Inui and H. Yukawa.	Microbiology. 151: 501-8. 2005
13	Isolation and characterization of a native composite transposon, Tn14751, carrying 17.4 kilobases of <i>Corynebacterium glutamicum</i> chromosomal DNA.	M. Inui, Y. Tsuge, N. Suzuki, A.A. Vertès and H. Yukawa.	Appl. Environ. Microbiol. 71: 407-16. 2005
14	Metabolic engineering of <i>Corynebacterium glutamicum</i> for fuel ethanol production under oxygen-deprivation conditions.	M. Inui, H. Kawaguchi, S. Murakami, A.A. Vertès and H. Yukawa.	J. Mol. Microbiol. Biotechnol. 8: 243-254. 2004
15	<i>Corynebacterium glutamicum</i> glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase isoforms with opposite, ATP-dependent regulation.	C.A. Omumasaba, N. Okai, M. Inui and H. Yukawa.	J. Mol. Microbiol. Biotechnol. 8: 91-103. 2004

◆2005年(平成17年)解説／総説文

	タイトル	研究者	掲載先
1	再生可能資源とバイオリファイナリー	湯川英明	農林水産技術研究ジャーナル 28:41-46. 2005
2	バイオリファイナリー構築に向けて	乾 将行, 湯川英明	バイオサイエンスとインダストリー 63:23-26. 2005

◆2005年(平成17年)口頭発表

	タイトル	研究者	発表先
1	バイオリファイナリー産業化 エネルギー・化学品生産	湯川英明	日本太陽エネルギー学会 第8回研究講演会, 2005年11月
2	バイオリファイナリー産業の早期構築へ向けて	湯川英明	第29回先端繊維素材研究委員会(AFMc)講演会, 2005年10月
3	Growth-Arrested Microbial Cells as Whole-Cell Biocatalysts: a New Paradigm for Efficient Production in Biorefinery Complexes	Alain A. Vertès, Masayuki Inui, and Hideaki Yukawa	14th European Biomass Conference and Exhibition, 2005年10月
4	Biohydrogen Production for Commercialization	Alain A. Vertès, Masayuki Inui, and Hideaki Yukawa	14th European Biomass Conference and Exhibition, 2005年10月
5	バイオリファイナリー産業の早期実現へ向けて	湯川英明	日本農芸化学会 関西・中四国・西日本支部合同大会

	タイトル	研究者	発表先
6	The Energy Revolution: Technology for Ethanol Production	Alain A. Vertès and Hideaki Yukawa	Eastern Biofuels Conference & Expo II, 2005年9月
7	Application of the RITE Bioprocess in Hydrogen Production	Hideaki Yukawa and Masayuki Inui	SIM Annual Meeting, 2005年8月
8	Bio-refinery Technologies	Hideaki Yukawa	BioClusters Asia, 2005年7月
9	バイオエネルギーの展望とRITEバイオプロセス	湯川英明	地球環境バイオフォーラム2005, 2005年7月
10	Analysis of a new insertion sequence IS14999 from <i>Corynebacterium glutamicum</i>	Yota Tsuge, Nobuaki Suzuki, Masayuki Inui, and Hideaki Yukawa	American Society for Microbiology 105th General Meeting, 2005年6月
11	Novel large segment deletion method for <i>Corynebacterium glutamicum</i> in which multiple deletions are possible	Nobuaki Suzuki, Yota Tsuge, Satoshi Okayama, Masayuki Inui, and Hideaki Yukawa	American Society for Microbiology 105th General Meeting, 2005年6月
12	Development of a new bioprocess for organic acid production using <i>Corynebacterium glutamicum</i>	Shohei Okino, Hideo Kawaguchi, Masayuki Inui, Hideaki Yukawa	The 27th Symposium on Biotechnology for Fuels and Chemicals, 2005年5月
13	Genome engineering and analysis for <i>Corynebacterium glutamicum</i>	Nobuaki Suzuki, Hiroshi Nonaka, Naoko Okai, Yota Tsuge, Masayuki Inui, Hideaki Yukawa	The 2nd Annual World Congress on Industrial Biotechnology and Bioprocessing, 2005年4月
14	A novel bioprocess for the production of fuel ethanol and chemicals from lignocellulosic sugars	Masayuki Inui, Shohei Okino, Hideo Kawaguchi, Hideaki Yukawa	The 2nd Annual World Congress on Industrial Biotechnology and Bioprocessing, 2005年4月
15	Biohydrogen Research and Development in Japan	Hideaki Yukawa, Masayuki Inui	The 2nd Annual World Congress on Industrial Biotechnology and Bioprocessing, 2005年4月
16	新潟県油井から採取した地層水中の環境DNA分析	石井 翔, 稲富健一, 乾 将行, 湯川英明	日本農芸化学会2005年度大会, 2005年3月
17	変異loxP配列を用いた <i>Corynebacterium glutamicum</i> ゲノムの多重削除	鈴木伸昭, 野中 寛, 岡山 巧, 乾 将行, 湯川英明	日本農芸化学会2005年度大会, 2005年3月
18	コリネ型細菌由来の新規挿入配列 IS14999 の解析	柘植陽太, 鈴木伸昭, 乾 将行, 湯川英明	日本農芸化学会2005年度大会, 2005年3月
19	<i>Desulfitobacterium</i> sp. Y51株 ゲノム解析	野中 寛, 篠田吉史, 池永由布子, 阿部美優紀, 内藤香枝, 稲富健一, 乾 将行, 古川謙介, 湯川英明	日本農芸化学会2005年度大会, 2005年3月
20	超好熱始原菌 <i>Thermococcus kodakaraensis</i> KOD1株由来Rubiscoの常温光合成細菌への導入	吉田昭介, 金尾忠芳, 乾 将行, 湯川英明, 富澤健一, 跡見晴幸, 今中忠行	日本農芸化学会2005年度大会, 2005年3月
21	コリネ型細菌を用いた有機酸生産バイオプロセスの構築に関する基礎的検討	沖野祥平, 乾 将行, 湯川英明	日本農芸化学会2005年度大会, 2005年3月
22	酸素抑制条件下におけるコリネ型細菌の糖代謝経路の解析	村上賜希子, 沖野祥平, 川口秀夫, 乾 将行, 湯川英明	日本農芸化学会2005年度大会, 2005年3月
23	コリネ型細菌の糖輸送系(PTS)遺伝子破壊株の解析(2)	岡井直子, 鈴木伸昭, 池田洋子, 野中 寛, 乾 将行, 湯川英明	日本農芸化学会2005年度大会, 2005年3月
24	コリネ型細菌を用いたラセミ体化合物の光学分割	塚本周平, 乾 将行, 湯川英明	日本農芸化学会2005年度大会, 2005年3月
25	<i>Desulfitobacterium</i> 属細菌における16S rRNAの多様性	山下雄三, 二神泰基, 野中 寛, 湯川英明, 後藤正利, 古川謙介	日本農芸化学会2005年度大会, 2005年3月
26	実用化への挑戦:RITEバイオプロセスによるエタノール, 水素生産	湯川英明	日本機械学会関西支部第80期定時総会, 2005年3月
27	バイオリファイナリー構築へ向けて エネルギー・化学品生産	湯川英明	エネルギー・環境総合フォーラム, 2005年3月
28	バイオリファイナリーの現状と将来展望	湯川英明	ひょうごエコタウンシーズフォーラム, 2005年2月
29	地球温暖化対策とバイオテクノロジー	湯川英明	平成16年度 第3回 地球環境研究会, 2005年2月

	タイトル	研究者	発表先
30	High-efficiency hydrogen production from formate	Hideo Kawaguchi, Akihito Yoshida, Taku Nishimura, Masayuki Inui, Hideaki Yukawa	International Workshop on Biorefinery, 2005年2月
31	A novel bioprocess for the production of fuel ethanol and chemicals from lignocellulosic sugars	Shohei Okino, Hideo Kawaguchi, Masayuki Inui, Hideaki Yukawa	International Workshop on Biorefinery, 2005年2月
32	The complete genome sequence of <i>Corynebacterium glutamicum</i> R and the comparative genome analysis with other corynebacteria	Hiroshi Nonaka, Peter Kós, Naoko Okai, Masayuki Inui, Hideaki Yukawa	International Workshop on Biorefinery, 2005年2月
33	The complete genome sequence of the anaerobic dehalorespiring <i>Desulfitobacterium</i> sp. Y51	Hiroshi Nonaka, Yoshifumi Shinoda, Gabor Keresztes, Yuko Ikenaga, Miyuki Abe, Kae Naito, Kenichi Inatomi, Kensuke Furukawa, Masayuki Inui, Hideaki Yukawa	International Workshop on Biorefinery, 2005年2月
34	The whole genome shotgun (WGS) sequencing of <i>Clostridium kluyveri</i> for efficient utilization of protein-derived biomass	Hiroshi Nonaka, Yoshifumi Shinoda, Yuko Ikenaga, Miyuki Abe, Masayuki Inui, Hideaki Yukawa	International Workshop on Biorefinery, 2005年2月
35	Novel large segment deletion method for <i>Corynebacterium glutamicum</i> in which multiple deletions are possible	Nobuaki Suzuki, Hiroshi Nonaka, Yota Tsuge, Satoshi Okayama, Masayuki Inui, Hideaki Yukawa	International Workshop on Biorefinery, 2005年2月
36	High throughput transposon-mediated mutagenesis and construction of disruptant library of <i>Corynebacterium glutamicum</i>	Nobuaki Suzuki, Naoko Okai, Hiroshi Nonaka, Yota Tsuge, Masayuki Inui, Hideaki Yukawa	International Workshop on Biorefinery, 2005年2月
37	New Transposable Elements in <i>Corynebacterium glutamicum</i>	Yota Tsuge, Nobuaki Suzuki, Masayuki Inui, Hideaki Yukawa	International Workshop on Biorefinery, 2005年2月
38	Transcriptome and proteome analysis of oxygen deprived metabolism in <i>Corynebacterium glutamicum</i>	Masako Suda, Yoshifumi Shinoda, Shikiko Murakami, Shohei Okino, Hiroshi Nonaka, Masayuki Inui, Hideaki Yukawa	International Workshop on Biorefinery, 2005年2月
39	Production of Fuel Ethanol from Biomass by a Novel Bioprocess	Hideaki Yukawa	長岡技術科学大学 21世紀COEプログラム 国際シンポジウム, 2005年1月

◆2005年(平成17年)出版物等その他発表

	タイトル	研究者	掲載先
1	再生可能な生物資源”バイオマス”	湯川英明	エコネーション 5:8. 2005
2	RITEバイオプロセスによるエタノール製造	川口秀夫, 湯川英明	エコバイオエネルギーの最前線
3	バイオマス資源からのエタノール生産	川口秀夫, 湯川英明	生物工学ハンドブック
4	Vitamin Synthesis: Carotenoids, Biotin, and Pantothenate	G. Sandmann and H. Yukawa	Handbook of <i>Corynebacterium glutamicum</i>
5	バイオリファイナリー構築へ向けて	湯川英明	バイオテクノロジー総覧